

国交省・06年度

平均落札率が大幅低下

WTO適用工事は74・78%

国土交通省がまとめた06年度の工事契約等関係資料によると、地方整備局発注（港灣空港関係を除く）が06年度に発注した工事の平均落札率は88・76％と、過去最低だった05年度の91・8％を下回り、データの公表を開始した99年度以降で最低を記録した。競争契約した1万0855件の工事を集計した。入札方式別にみると、大規模工事を対象とするWTO政府調達協定適用の一般競争入札（予定価格7・2億円以上）の落札率が特に低く、161件あった入札の平均落札率は74・78％となった。前年度よりも10ポイント以上の低下で、平均

値そのものが低入札価格調査基準に該当することになった。同省発注工事（港灣空港関係を除く8整備局分）の平均落札率は、毎年度低下を続けており、99年度96・9％、00年度96・7％、01年度96・1％、02年度95・3％、03年度94・4％、04年度94・1％、05年度91・8％。06年度に初めて9割を割り込んだ。公共投資の縮減が続ぎ、受注競争が厳しさを増していることを裏付けている。

同省の低入札調査基準価格は、発注者が予定価格の85％から3分の2の間で定めており、06年度の政府調達協定適用の一般競争入札の平均落札率は73・46件あり、平均落札率は89・12％、工事希望型競争入札は3084件あり、平均落札率は88・64％、通常指名競争入札は258件あり、平均落札率は88・92％だった。

は、この基準値内に収まる。大規模工事のほぼすべてで低価格受注が起きていたといえそうだ。

19年 11月 1日

建設工業新聞